

高松スタイル

創刊3号

Vol.03 September 2007

Anki

〔あんき〕
Takamatsu Style Anki

特集／瀬戸内・小豆島に魅せられて

- ・転職、移住してきた新住民たち
- ・暮らしとエコツアー情報の発信者
- ・棚田に似合う伝統の「農村歌舞伎」



故郷・小豆島しやうとしまを

書き続けた壺井栄

小豆島を知っていますか。

もしも、よくわからないようでしたら、

いちど、日本の地図をひろげてみてください。

瀬戸内海の東のほうに小犬のような形をした、

小さな島が見つかるでしょう。その小犬は今も、

うつむいてごはんをたべているような、かつこうをしています。

その背中に「小豆島」と書かれてあるはずですが、

まるで、あずきつぶのように小さそうな名まえではあります。

かぞえきれないほどたくさんある瀬戸内海の島々のなかで、

小豆島は、淡路島につづく、二番めに大きな島なのです。

周囲百五十キロといわれていますから、

それですぐの広さがわかるとは思いますが、

もっとわかりよくいえば、この島のなかに三つの町と

十三の村があります。ごく近ごろのこと（昭和二十六年の春）、

いくつもの村がいっしょになって一つの町になったりしましたが、

これからはじまる物語はそのままのことになります。

『母のない子と子のない母と。』より 壺井栄 著

「二十四の瞳」の大石先生の家は大きな一本松のある集落にある。「竹生(たけう)の一本松」は樹齢600年の松だったが、昭和20年の台風で倒壊。現在は二代目が植えられている。

12人の子どもたちがおなご先生を囲んでいる「平和の群像」。

昭和29年の「二十四の瞳」映画化の際には、実際に児童が使っていた「岬の分教場」で多くのロケが行われた。

木造民家が軒を連ね、昭和初期の小さな漁村を再現した「二十四の瞳映画村」。映画村内には「壺井栄文学館」があり、「二十四の瞳」の生原稿や栄の愛用品のほか夫で詩人の繁治、友人で作家の黒島伝治の資料も展示している。

岬の分教場のある田浦の隣の畑にも分校があり、その跡には栄の夫・壺井繁治の詩碑が建つ。栄は分校の隣に建つ繁治の生家から分校をよく眺めていたという。

小豆島町(旧内海町)苗羽(のうま)のあたりには醤油蔵や佃煮工場が多く、「醬(ひしお)の郷」と呼ばれている。

栄の生まれた坂手地区の高台にある「壺井栄文学碑」。碑には栄が好んで色紙に書いた「桃栗三年 柿八年 柚子の大馬鹿十八年」と刻まれている。

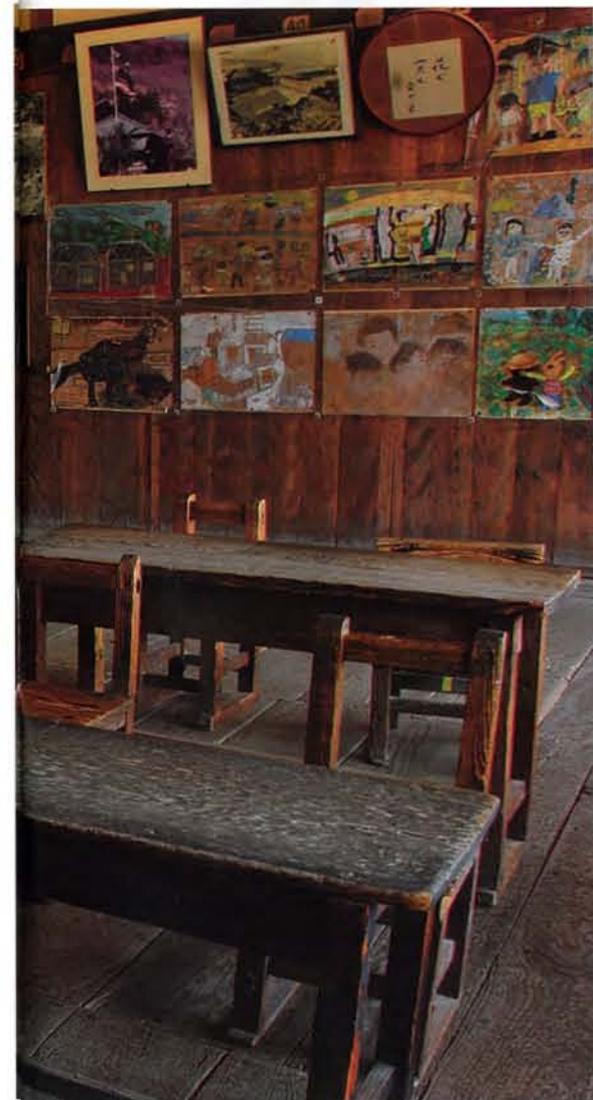


photo:ALOWAN

高松スタイル

Anki

Vol.03 September 2007 [あんき]

【安気(あんき)】

心に苦しみがなく、気楽でのんびりしていること。また、そのさま。讃岐弁では、のんびりと心晴れやかな人のさまを表して「安気でええのう」という風に使う。高松スタイル「Anki」は、讃岐の暮らしの中に眠る「日常の豊かさ」に光をあてながら、新しい高松ライフを提案する大人の文化情報誌です。

C O N T E N T S

丸亀町A街区が遂に完成

- ・国内最大級のガラスドーム広場……04
- ・仕掛け人、福川裕一教授に聞く……06
- ・17年前から動いた再開発構想……08

小豆島に惚れ込んだ人たち

- ・ヒルズ族から島情報の発信者に……10
- ・オランダ人も来た転職、移住者……12
- ・300年続ける「農村歌舞伎」……14

SHOPの調

- WAKAYA / 熊 春枝さん(91)
- 野田屋電機 / 古川新二さん(83)
- コレクションコニシ / 小西扶幸さん(55)
- アイアイ イスズ ヴァンキャトル / 飯間さや香さん(23)

HISTORY

- さめぎの歴史を探る[Ⅲ]……18
- 日本のダ・ヴィンチ、平賀源内

OPINION

- 三越と伊勢丹が統合する背景……20

VOICE

- 商店街のQ&A……22

表紙作品



川島 猛 作「DREAM LAND N.Y.1989-No.5」1989年制作 247.7cm×621.7cm
アクリル、オイル、ゲーター・フォーム、ウッド、キャンバス



川島 猛 かわしまたけし

「ドリームランド・シリーズ」は、カラフルで有機的な抽象形体が描かれたキャンバスの上に、格子状の木枠や生物的なカットアウトを重ねた。鮮やかな木製の立体パーツが、心踊らせ、楽しい気持ちにさせる。装飾的だが立体的であり、環境の一部になる力を持った大きな作品だ。



壺井 栄 つばいさかえ(小説家)

1899(明治32)年、小豆郡坂手村(現小豆島町坂手)の醤油樽職人の家に生まれる。9歳のときに家が破産。苦学続きの少女時代を送る。26歳で上京し、同郷の詩人 壺井繁治と結婚。38歳で小説家としてデビューし、生涯に書いた小説、童話、随筆は1500編に近い。

壺井 栄は故郷・小豆島を舞台に、実に多くの小説や随筆を書いている。児童小説「母のない子と子のない母と」の冒頭では、小豆島のカタチを小犬に例え、短編小説「オリーブにふく風」では、オリーブのやわらかな葉色が風に揺れる島と紹介し、童話「お母さんの手のひら」には、紅葉の景勝地として知られる寒霞溪のある神懸山が登場する。

また、具体的な地名が書かれていない作品でも、小豆島の風景と符合するいくつかのキーワードから、その舞台が小豆島であることはおのずと知れる。実は「二十四の瞳」にも、小豆島という言葉は一度も登場しない。「瀬戸内べりの「寒村」と書かれているだけだ。しかし、岬、入り江、一本松、分教場などの描写から、それが栄が26歳までを過ごした故郷の島であることは言うまでもない。

昭和29年、「二十四の瞳」が映画化され、小豆島の名は一躍、全国に知れ渡ることになった。ロケの行われた「岬の分教場」は、廃校後も大切に保存され、昭和62年のリメイク時に建てられたオープンセットを公開した「二十四の瞳映画村」は、島を代表する観光地としてにぎわっている。小豆島にはそれ以外にも栄やその作品ゆかりのスポットが数多くある。



明治35年に建てられ、約70年間、苗羽小学校田浦分校として使用されてきた「岬の分教場」。校舎や教室は廃校当時のままで保存されている。

国内最大級の
ガラスドーム誕生



商都高松の新しいシンボル



瀬戸内の自然を表したデザインが広場のあちこちに。川島 猛氏によるもの。

2007年7月14日、イタリアのガレリアを思わせるガラス張りのクリスタルドームが、香川県高松市の中心部丸亀町商店街にお目見えした。
現在進行中の「丸亀町再開発事業」の一環として建設され、商店街所有のガラスドームとしては全国一の規模となる。構想から17年、どのようにして丸亀町にドームが誕生したのか、その道のりをたどった。

7月14日。竣工式当日は、今年最初の大型台風接近であいにくの雨。厚く覆った雲からは大粒の雨が落ちていたが、丸亀町商店街の人々の表情はとて晴れやかだった。
「日本一長いアーケード街」の北端に位置する丸亀町商店街が、「人が住み人が集う」まちを目指して再開発に着手したのは1990年(平成2年)のこと。全国初の「民間主導型」市街地再開発事業として、今年3月には安倍首相も訪町するなど、今最も注目されている都市再開発モデルの1つだ。470mの商店街をA・Gの7街区に分け、街区ごとに必要な都市機能を充実させながら、約5年間で段階的に商店街全体を一新していく。

事業は、専門業者に一任するのではなく、高松丸亀町商店街振興組合が出資した「まちづくり会社」が自ら管理運営するなど、他に類を見ない独自の手法が盛り込まれている。
1048枚の強化ガラスで覆われたガラスのドームは、直径26m、高さ32.18m。商店街が持つドームとしては日本一となる。ドーム下の広場は、香川県出身でニューヨーク在住の芸術家・川島猛氏(77歳)がデザイン。機能性だけでなく、アー

トとまちの融合も再開発のテーマになっている。
ドームウエディングで祝福
朝8時半、真新しいドーム広場では厳かに神事が行なわれ、工事関係者らがドームの完成を土地の神様に報告した。その後の竣工式には市民ら約300人が出席。



式が始まる頃には奇跡的に雨も止み、明るい日射しの降り注ぐドームで2人の門出を祝った。

新郎の山本孝治さん(25歳)は、丸亀町商店街の靴専門店に勤務。職場が年中無休のため、同僚たちを式に呼ぶには「これしかない」と応募を決めた。新婦の幸さん(24歳)も「2人で会うのはたいがい主人の職場がある丸亀町商店街だった。一緒に歩いた思い出の場所、たたくさんの人に祝福してもらえて、とても幸せです」と喜びを語った。

アートユニット「サーカス」の1人、榎塚登さん(35歳)は「話を聞いて面白いのでぜひ作ってみたいと思った。ドームは天井が高くていい。コンサート時に音が天井に反響し、まるで音が降ってくるようです。建造物としても美しいし、アート空間としてもっと幅広い用途があると思う」と意欲を見せる。
イベントに参加したボーカルグループ「アウローラ」の皆さん。

市民が憩い集う広場として

高松市の大西秀人市長が「世界に誇れるドームが完成した、商店街復活のシンボルにしたい」と挨拶しテープカットを行った。
引き続き行われたオープニングセレモニーでは、一般公募による人前結婚式を挙行。大西市長立ち会いのものと、街行く人々もフラワーシャワーで2人の門出を祝った。36組の応募の中から選ばれた

オープニング後のドーム広場では、週末毎に様々な催しが開かれていく。そこで大活躍しているのが、商店街が地元若手作家らに制作依頼した「ドーム型のカフェスペース」や「マルシェ屋台」などおしゃれな小道具たち。
ループ、アウローラのメンバーも「明るくて空を見ながら歌えるのはとても気持ちいい」と使い心地に満足の様子。「私たちの役目はステージを作ること。市民の皆さんにどんどん活用してほしい」と話す古川康造振興組合理事長。その言葉通り、ドーム広場を中心に、再びまちに活気と賑わいが戻り始めている。



週末にはジャズの生演奏など楽しい音がドームに響く。



ドーム型カフェスペースとマルシェ屋台。毎回一般から出店希望者を募り、個性豊かな店が並ぶ。



華やかな衣装でイタリアオペラの名場面を披露したボーカルグループ「アウローラ」の皆さん。



テープカットに参加した鹿庭幸男さん(高松丸亀町商店街振興組合前理事長)は「今日はいい記念になりました」と感慨深げ。



高松の氏神様、石清尾八幡社宮司によって神事が行なわれた。

探索 丸亀町アーケードドーム

ドーム広場の基本構想を担当した福川さんに聞く



福川裕一さん
千葉大学工学部建築学科教授

Q1
ドーム広場はどんな経緯で作られたのか。

A1

私が最初に関わったのは1990年に発足した「丸亀町再開発委員会」です。丸亀町商店街の青年会を中心に、建築や法律、経営など多方面の専門家が参加して再開発の基本計画を検討しました。その初期段階から、ドーム広場は計画の中に含まれていました。丸亀町商店街は日本一長いアーケード街として栄えた町。その町を活性化すると聞いた時、最初に浮かんだのはイタリア・ミラノのガラリアドームでした。19世紀以降、パリではパッサージュ、イギリスではアーケードなど、商業施設にガラスの屋根を付けるスタイルが流行し、最もファッションアブルな商業施設として人々の人気を集めていた。そこでガラリアドームをまち再生のシンボルとして丸亀町に持つてこようと。何度も設計や模型づくりを繰り返し、最終的にはミラノのドームより小さくなりしましたが、それでも商店街に面したガラスドームとしては日本一のスケールだと思っています。

Q2
なぜ商店街にドーム広場を作ろうと思ったのか。

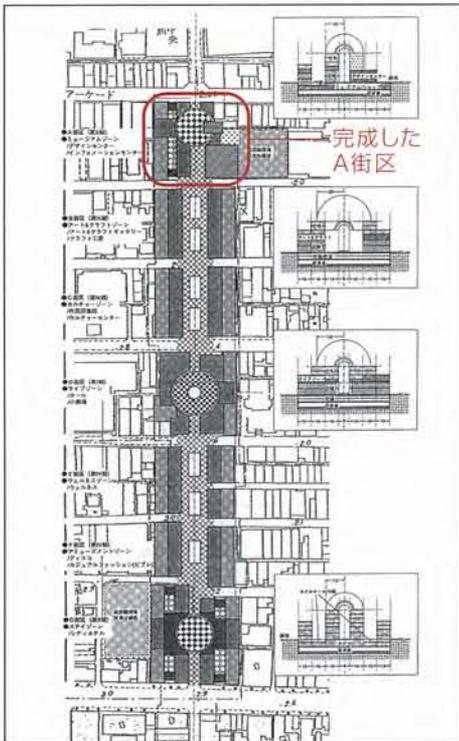
A2

まちには必ず人々が集える中心広場が必要なんです。広場のルーツをたどると古代ギリシアの「アゴラ」が浮かびます。「アゴラ」とは古代ギリシア語で「広場」の意味。紀元前8世紀、世界最初の都市国家が形成されたアテネで、アゴラは政治、宗教、文化施設が集中し、哲学者たちが議論に花を咲かせた市民生活の中心地でした。また市場が立ち並び、市民が集い憩う貴重な情報交換の場でもありました。

一方、日本の都市の歴史をみると、広場的な役割を果たしたのは



ミラノのガラリア



初期の再開発計画案。両端と中央に3つのドームを盛り込んでいる。

Q3
「札の辻」とは？

A3

「通り」でした。丸亀町のように「札の辻」や橋のたもと、神社の境内など、人が集まる所に自然発生的に市が立ち、広場的な機能を担っていました。そんな広場のない国に、民主主義の象徴である本格的な広場を造ってしまおうというのが、実は丸亀町のドーム広場の原点です。市民の力を集め、市民が活用し、そうした営みの中で社会を形成していく。「住民が主役のまちづくり」をテーマとする丸亀町では、ドームをその象徴として、商店街全体が再び暮らしの広場になることを目指したのです。

「札の辻」は、江戸時代、幕府の法度や掟、罪人の罪状を書いた



1640(寛永17)年に描かれた「生駒家時代讃岐高松城屋敷割図(部分)」。

高札を高く掲げた人目を引く所。街道の分岐点にあたり、多くの旅人や荷物が行き来する、言わば当時の繁華街でした。実はドーム広場が造られた場所も、かつての「札の辻」です。

香川県丸亀市から商人を呼び寄せ、香川下に住ませたのが丸亀町の起源です。その北端には、城の外堀に架かる常磐橋を起点として、志度、長尾、仏生山、丸亀、金毘羅の五街道が伸びていました。つまり歴史的に見ても、昔からここは商都高松の中心だったんですね。

Q4
今回の再開発のテーマとして、景観や街並みの美しさにも配慮したと聞いていますが。

A4

世界を見ても長く人々に愛されるまちに共通するのは、時間をかけて培われた美しい景観が備わっていること。丸亀町では段階的に進んでゆく開発の中で美しい街並みを創出するため、デザインコード(街並み形成のための自主規制ル



南側から臨むドームと新しく生まれ変わった丸亀町A街区。通りを挟んで東西にショッピングセンターの高松丸亀町巷番街が建つ。1~4階は商業施設、上階はマンション。

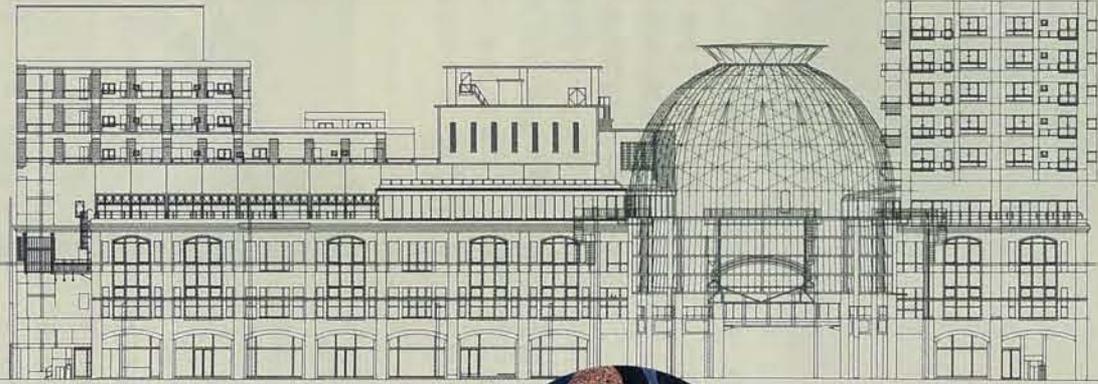


ドーム広場では様々な催しが行なわれ、来街者を楽しませている。

川島 猛氏による広場デザイン。テーマは「Peace(平和)」。御影石を組み合わせ、中心部には瀬戸内の豊かな自然を、周りには健やかで平和に暮らす人々の歓喜の様子を表している。



ドームから南に続く丸亀町商店街。新しく整備されたA街区の向こうには、庶民的なアーケード街が、まさにまちが生まれ変わろうとしている。



ドームの東側、壱番街1階には世界のブランドショップが並ぶ。

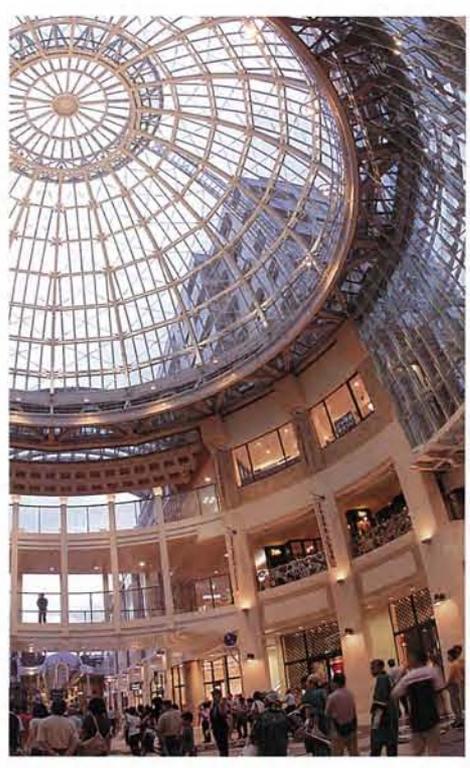


イベント時の広場の様子。

Data	
■名称	ドーム(正式名称:3町ドーム)
■建築主	高松丸亀町商店街振興組合
■大きさ	直径:26m 高さ:32.18m
■構造	鉄骨造 ※ドーム部は強化ガラス2枚を使用した合わせガラスを採用
■デザインディレクション	高松丸亀町タウンマネージメント委員会
■デザインコード担当	福川裕一(千葉大学工学部建築学科教授)
■企画、構想、調査ほか	(株)まちづくりカンパニー シープネットワーク
■アーケードドームデザイン	(株)板倉建築研究所大阪事務所
■広場路面デザイン	川島 猛(現代芸術家)
■施工	アーケードドーム:神村鉄工(株) 街路:(株)合田工務店

ル)を設けています。つまり個別に建て替えられる建物同士が調和を壊さないように、住民の皆さんとイメージを共有しているのです。また「美しい」という言葉が何を意味するかも重要です。簡単に言うと「居心地のいい空間を作る」ということでしょうか。見た目の美しさはもちろんですが、いろんな人が様々なシーンで快適に過ごせる空間をあらかじめ作る、これが大事なんです。例えば、デパートのベンチや休憩コーナーなど、大型商業施設では当たり前前の工夫を、丸亀町では通りそのもので実現させようというわけです。快適性を高めるためのデザインも随所に施しています。例えば、ドームはガラス製なので晴れた日は青天井のように見えますね。

でもよく見ると円の周りに短いひさしの様なものがついている。実はこれによって、人は屋外に居ながら心理的に部屋の中に居るような安心感を感じるんです。また天井の高さや比率も快適性を意識して計算しています。それから広場が広場っぽくなるためには、本当は「へそ」がいるんですね。ヨーロッパの場合はたいいてい銅像や噴水などがあります。しかし、丸亀町の場合は商店街なので、中心に何かを置くことは出来ません。そこで、ドームの形状や広場の路面デザインを円形にすることで、中心部への収斂、高まりを演出しています。広場の一番の「へそ」はやっぱり人。たくさん人が集い、憩える広場として活用してもらえるといいですね。

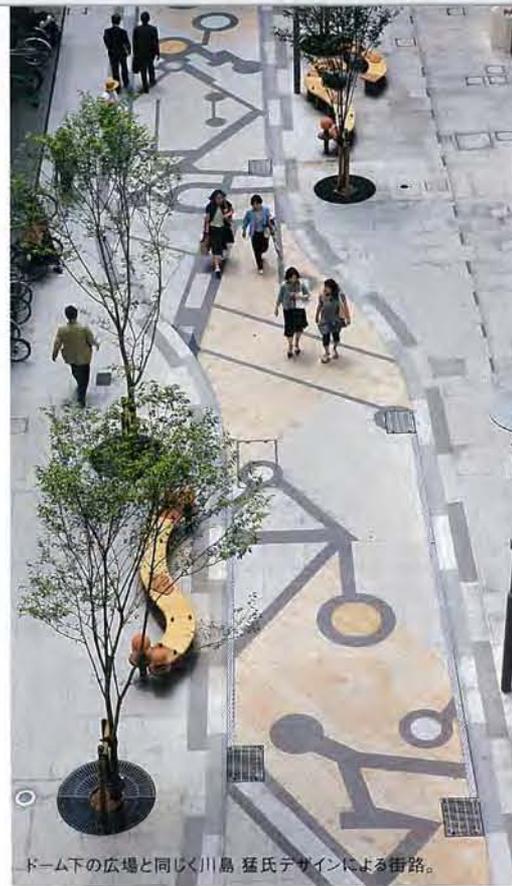


ひさしの視覚効果が安心感を与える。



組合主導で17年前にスタート 1000台の駐車場に先見の明

土地の「所有と使用」を分離した丸亀町再開発



ドーム下の広場と同じく川島 猛氏デザインによる街路。

丸亀町が再開発に着手したのは今から17年前。当時はバブル全盛期。現在のような商店街の疲弊など想像出来ない時代だった。

瀬戸大橋が開通した1988年（昭和63年）、丸亀町商店街は「開町400年」を祝い108日間にわたるロングイベントを敢行した。商店街としては全国に先駆けて海外の商店街（パリ・カブシュー通り）との姉妹提携も結び、丸亀町はまさに順風満帆のように見えた。

危機感抱いた前理事長

ところが「今のままで5000年祭が出来るだろうか」。当時の理事長、鹿庭幸男さん（83歳）は歓声の影でこんな危機感を抱いていた。事実、バブルによる地価の高騰で一時は駐車場代が月5万5000円に上昇。それまで商住一体型で、まさに住んでいた店主も、次第に町を離れていった。八百屋や生活用品の店は姿を消し、ブティックが中心のファッション街へと業種が偏り始め、だんだん住みにくいまちになっていく。

城下町の地割が残っている丸亀町では、間口が狭く奥行き長いウナギの寝床状の店が多い。広さも50〜60坪、新しい店が入りづらい要因にもなっていた。こうした背

景から1990年（平成2年）、鹿庭理事長の指示で青年会を中心に「丸亀町再開発委員会」が発足。各方面の専門家も加わり、再開発に向けて本格的な取り組みが始まった。丸亀町の先見の明については、それ以前にも実績がある。昭和40年代、モータリゼーションの到来を予測して商店街自ら駐車場経営に乗り出した。店主有志が出資して土地を購入し不動産会社を設立。現在までに約1000台分の駐車場を確保している。この駐車場経営の成功と収益が、今回の再開発事業を可能にした下地にもなっている。

丸亀町独自の新手法

平成に入ると鹿庭理事長の予感的中した。1996年（平成8年）以降の大法法（大規模小売店舗法）緩和により、この10年で高松市の大型店比率は全国46位から1位へ、日本一の大型店激戦区になった。また駅前開発も中心部の空洞化に拍車をかけ、ますます商店街の刷新は急務となった。

とはいえ、更地にショッピングセンターを建てるのと違い、既存の商店街を生きながら生まれ変わらせるには、数々の難問がある。丸亀町ではまず再開発ビルの土地を確保するために、土地の「所有権と使用権を分離」する形で地権者から土地を借り受け、商店街自らショッピングセンターを運営するという新しい事業モデルを編み出した。定期借地として土地の所有権は動かさず、丸亀町振興組合と高松市が出資した第3セクター「高松丸亀町まちづくり株式会社」が賃借した土地に建物を建て、テナント誘致や施設の運営管理をする。こうすることで土

地取得のイニシャルコストを抑え、地代を家賃に反映させることなく本来望まれるテナントミックスが出来る様になった。

そして昨年12月、再開発のトップバッター「高松丸亀町壱番街」がA街区に誕生した。1階には「グッチ」「コーチ」など高級ブランドが軒を連ね、大型書店や生活雑貨の店なども充実。地権者の店も従来の売り場をブラッシュアップし、郊外の大型店とは一線を画した本物志向の大人向けショッピングセンターを目指す。さらに上階には分譲マンションを設け、現代版の「商住一体型」も実現した。今後は、まちづくり会社が、商店街全体のタウンマネージメント機関として、B街区以降の再開発事業を推進していく。

5年間で商店街を一新

A街区では地権者の合意形成に10年以上かかったが、B街区以降は「小規模連鎖型」という次なる秘策でスピードアップを図る。両隣2〜3軒、約150坪分の合意が取れた所から再開発をスタート。デザインコードや地区計画に基づき、連鎖的に商店街全体を建て替えてゆく。加えて、各街区には医療機関や介護施設を揃えた医療モール、小さな店が集まる路地裏ゾーン、地産地消を意識したマーケットなど、生活密着型のアイデアが構想されている。

丸亀町再開発事業は5年後に完成の予定だが、本場のゴールは「日本一暮らしやすい小さなまち」。深刻化する少子高齢化に対応させようと、都市のコンパクト化が叫ばれる中、再び中心市街地に住民回帰が起ころのはそう遠くない。（小西智都子）

1588年
（天正16年）

生駒親正による高松城築城に伴い、丸亀藩より商人を招いて城下に住まわせたのが丸亀町商店街の起源と言われる。



昭和40年代の丸亀町商店街。

1963年

高松丸亀町商店街振興組合誕生。

1974年

商店街の有志が出資して不動産会社を設立、土地を購入して駐車場経営を開始する。

1984年

新アーケード、カラー舗装完成、南北の町営立体駐車場が完成。



完成式典の様子。

1988年

丸亀町開町400年祭。（108日間のロングイベント）パリ・カブシュー通りと姉妹提携。



フランスをテーマにした記念パレード。

1989年

「今のままで5000年祭はできるか?」。鹿庭幸男理事長のこの一言から、実質的な調査を開始。

1990年

丸亀町再開発委員会発足。都市計画はもろろん、建築や法律、経営の専門家と共に「高松丸亀町商店街再開発計画」を策定。後の事業計画の礎となった。



委員会の様子。模型を使ってまちの将来像を検討。

丸亀町商店街の新理事長
古川康造さんに聞く!

今、全国の商店街や中心市街地が苦戦する中で、丸亀町商店街はなぜこのような地元主導型の再開発が出来たのか。新理事長の古川康造さんに尋ねると、「丸亀町の人は、紳士“だから」という意外な答えが返ってきた。

老舗商店街が培った精神風土

「商売を長く続けるにはきつとコツがあると思うんです。それは目先の損得ではなく、正しいか否かで物事を判断すること。そういう商人としての良心が、丸亀町にはしっかりと根付いているのだと思います。例えば、讃岐弁で「ふうが悪い」という言葉をよく使います。格好が悪いとかみつもまないという意味なんですけど、要は商人として恥ずかしい、良心に反することをすると「ふうが悪いことするなよ」と諷められます。つまり、今の言葉で言えば、それが自主規制のルールなんです。自分勝

手ではなく互いに話し合いが出来るといこと。パリにしてもシドニーにしても、都市の新旧問わず、この自主規制が確立しているところは繁栄していると思います。また歴史的に見ても、高松の基幹産業は商業です。長年商都として栄えてきた都市を立て直すには、商業が主役になるのが当然。私たちは単に自店の儲けだけでなく、そういう都市の顔としての責任を負っていると思っています。だから、店を守るのではない、まちを生き返らせることが私たちの再開発の目的なのです」

まちのことは自分たちです
「市民デベロッパ」

「まちの再生には誰も反対しませんが、いざ既存の商店街を再開発するとすると、地権者の権利調整がカギになります。専門会社をお願いすることも出来ましたが、そうする

とどうしてもお互いの契約条件が気になり、疑心暗鬼になってしまう。私たちにあって、コミュニティは長年培ってきた財産です。それを壊すようなことはなんとしても避けたかった。そこで、土地の所有と運用を切り離して、商店街がショッピングセンターを運営するというアイデアが生まれたわけです。オレもやるからお前もやれ。お金ではなく、お互いの信頼関係を進めていくのが丸亀町流。時間はかかりましたが、まちに投資する“という発想に、地権者みんなが合意出来たから再開発に踏み切れたんだと思います」

組織も世代交代

今年の4月、これまで丸亀町を牽引し、再開発事業の先駆けを作ってきた鹿庭幸男さん(83歳)から、古川康造さん(50歳)に理事長のバトンが渡り、

他の役員も一気に若返った。「よく冗談で、僕は子ども会です“って言うんですけど、平均年齢が30歳ぐらい若返りました。B街区以降の計画実現に向けて、やる気満々の優秀な人材が揃っていますし、先輩たちも温かく見守ってくれています。私たちの強みはなんといってもこのチームワークですね」。丸亀町の快進撃はまだまだ続きそうだ。



鹿庭さんを中央に新旧丸亀町の有志が勢揃い。この団結力こそが丸亀町再開発の原動力だ。2006年(平成18年)10月の秋祭りにて。



北から見たドーム。周囲の建物と比べるとスケールの大きさがよくわかる。

1993年	町営第3駐車場完成、カルチャー館「フロンド」完成。
1994年	A・D街区市街地再開発準備組合設立。
1995年	A街区事業計画立案。
1998年	G街区市街地再開発準備組合設立。 イベントホール「丸亀町レッツ」完成。
2001年	「高松丸亀町まちづくり株式会社」設立。 ☆中心市街地活性化法が施行される。 郊外型ショッピングセンターの出店が現実化。 シティーカード高松スタート。
2002年	A・G街区再開発事業の都市計画決定。 G街区市街地再開発組合設立認可。
2003年	A街区市街地再開発組合設立認可。 第4駐車場「丸い亀さん」完成。 高松丸亀町 吉番街株式会社が設立発足。
2004年	A街区権利交換 計画知事認可、 A街区着工。
2006年	A街区「吉番街」 オープン。
2007年	ドーム広場完成。

南側から見たドーム。

自然舎のシーカヤックツアー。
穏やかな瀬戸内の夕日で、辺り一面がオレンジ色に染まる。



「自分 探し ライフ」 小豆島に移り住んだ人たち

このところ、都会暮らしに
「I'm enough」と言っ

田舎に移り住む人たちが
増えている。

住めば都…とは言え、

どんな場所で暮らすかによっ

て、人生は大きく変わる。

日本で最も日照時間が長く、

日本のオリーブ発祥の地とされる

温暖な島・小豆島。

その地で「自分ライフ」を

みつけた人たちを訪ねた。



都会から島へ 移住という選択



海を満喫、島の人は自然を楽しむのが上手。

瀬戸内海で淡路島に次いで2番目に大きな小豆島。約3万4千人が暮らし、夏から秋にはその4倍近くの観光客が押し寄せる。そんな風光明媚な島に、最近ガイドブックには載っていない島暮らしの魅力を教えてくれるNPOが出来たと聞いて、早速訪ねた。

**お金だけでつながった
関係よさらば**

事務所に着くと、まだ梅雨入り前だというのに、Tシャツに短パン、ビーチサンダルとすっきり島

人ルックの若者が迎えてくれた。連河健二さん(34歳)。昨年7月に島にやってきた移住者の1人だ。今は「水を得た魚の気分!」と明るい声をはじける。

熊本県生まれの北海道育ち。札幌市内で求人雑誌の営業などを経て携帯電話の販売会社に就職。その会社が吸収合併されたことから、一時ライブドアに勤めていた。当時は仕事を中心の生活。時間に追われ忙しいながらも充実した日々を送っていた。ところが昨年2月にライブドアで一連の事件が発覚。会社を失ったとたん「すべてが吹っ飛びちゃった」。

「お金でつながった人間関係なので、一緒に頑張ってた人もだんだん足並みが揃わなくなりました。会社って一体何だろうと思いました」

何かが違う。そう思って熊本に戻り準備をしていると、知人から四国へ仕事の誘いが。そのまま応じて、「とりあえず半年」のつもりで高松に飛び込んだ。

**着いたとたん
"やられた"って感じですよ**

高松に赴任して数カ月後のある日、営業中に港の前を通ると小豆島行きフェリーが目に入った。「ちょっと行ってみよう」と軽い気持ちで船に乗ったが、着いた所は別世界だった。とにかく海も山もすべてが緑色。べた凧ぎのキラキラした海を見て「ここに住みたい!」と直感的に思ったと言う。早速インターネットで調べてみたが、住むための情報がちっともない。けれど島の職安に尋ねると「仕事を選ばなければ求人はいくらある」とのこと。よし!と、周囲の反対を押しきって、翌日には辞表を出し、迷わず移住を決めた。



地元の人たちが交えた打ち合わせ風景。この日は、シーカヤックなど自然体感型のエコツアーづくりに話が弾む。



小豆島の達人、立花律子さん。島の日常を伝えるブログも人気。



2階がドリームアイランドの事務所。ここから様々な企画が生まれる。



島民の4人に1人が70歳以上、高齢化や過疎化が進む一方、就職難による若者の島離れも進んでいる。今のままでは島の宝は守りきれない。



自分の夢が 島のためになる

とは言え、決してノーブランな決断ではなかった。せつ々しい所なのに観光情報はあっても、生活情報はほとんどない。それがビジネスチャンスに見えたのだ。情報がないなら自分が住んで発信すればいい。都会で身体と神経をすり減らすよりも、田舎でたくさんの人が喜んでくれることがやりたい。その時「自分の居場所がスポットと見えた」と言う。その後、観光協会動議22年という島の事情通、立花律子さん(45歳)と共に、今年3月「NPOドリームアイランド」を立ち上げた。

住んだからこそ見える 島の姿

ドリームアイランドでの主な仕事は、小豆島の情報を集めたポータルサイトづくりとエコツアーの開発。自然の美しさはもちろん島遍路や農村歌舞伎、特産のオリブや素麺、しょうゆなど話題には事欠かない。けれど、一番伝えたいのは島の人たちの「ごく日常」



「実際に住んだ印象は、小さいけど暮らしが豊か」と連河さん。その良さは「来ればわかりますよ」と太鼓判を押す。

の暮らしぶり。そんな日々の様子をブログで紹介するうち、最近ではマスコミ取材や移住希望者からの問い合わせも増えてきた。

「都会はどんな人でも受け入れられる場所。でも田舎にはすべてを受け入れられるほどの許容量はない。都会なら何も考えなくても暮らせるけど、田舎では考えないと暮らせない。むしろ、暮らすことにエネルギーがいるんです」

移住希望者に必ず話すことだ。誰かが何かしてくれたいと思っていれば、はじき出されてしまう。それが島暮らしの現実でもある。

「外の“風”と中の“土”が混じりあって出来るのが“風土”。そうやって歴史は作られてきた。外と中がどう化学反応を起こして新しいものを生み出せるか。もちろんぶつかることもあるけど、自分たちは“風”だということを自覚して、“土”と関わっていったらいいと思っています」

“風”として移り住んで1年。「島の魅力は多すぎて、1年経ってもまだ1%ぐらいしかわからない」とニコリ。連河さんの夢の島暮らしは始まったばかりだ。

●NPO法人 DREAM ISLAND
■TEL・FAX / 0879-62-5963
■ブログ / <http://blog.livedoor.jp/dreamislandoor/>

Data

島暮らしで 手に入れたもの



「島宿 真里」のおばあちゃんの畑にて。おばあちゃんからはいるんな知恵を教えてもらったという中野さん。

40年来の夢を叶えた人もいる。林田文彦さん(65歳)は、妻の光子さん(65歳)とゴールデンレトリバーのロイクんの3人暮らし。58歳の時に早期退職し神戸から移り住んだ。文彦さんが初めて島を訪れたのは25、6歳の時。職場の仲間と来た1泊2日旅行で島の景色に心を打たれ、帰る頃には「いつか小豆島に住む!」と決めていたと言う。結婚当初から「定年後は小豆島」と聞かされていた光子さんも、最初は「そのうち忘れるやろう」と思っていたが、50歳を過ぎる頃から夢は現実へと変わっていった。

住んで最初の2年は「遊び尽くした」という文彦さん。移住前に船舶免許も取得、念願のクルーザーも購入して釣り三昧を味わった。光子さんも週3回、近所の人たちとグラウンドゴルフを楽しんでいる。最初は無口だったという島の人たちも、こちらから積極的に話しかけて顔見知りになると「魚をもらったからお裾分け」「野菜が出来たから採りにおいで」と声をかけてくれるように。「今は人生を2回楽しんでる気がしますよ」と御満悦の文彦さんの横で、光子さんも清々しい笑顔を見せた。

就職活動じゃなくて 就住活動?

「町育ちなのでずっと、田舎」がほしかったのかも」と語るのは大阪出身の幸崎誠司さん(24歳)。滋賀県立大学地域文化学部在学中、毎年夏休みの1カ月間を、子どもキャンプのボランティアリーダーとして小豆島で過ごしていた。転機が訪れたのは大学3年の時に体験したモンゴルの遊牧民との共同生活だった。「何もないのにすべてがある」彼らの生活にカルチャー



年中お遍路さんの姿が絶えない。緑に囲まれた穏やかな入り江。時が止まったよう。

自然のサイクルに逆らわず、自分の歩幅にあった暮らし方…。移住者たちの暮らし方は、小豆島の空気に溶け込んで、とても開放的で穏やかに見える。居所を変えるとすることは、同時に生き方を見直すということ。スローな島暮らしで、それぞれが手に入れたものについて聞いた。

豊かな自然に「目惚れ

「自分のキャンプ場を開きたい」。そんな夢を叶えにやって来たのは、オランダ人のミシェル・ハベツさ

ん(50歳)と横浜市出身の根本美緒さん(46歳)夫妻。和歌山・大島のキャンプ場で働きながら高知から伊豆まで大平洋沿岸を探し歩き、9年前にようやく小豆島と出会った。美しい自然はもちろん、京阪神へのアクセスがいいこと、何より外国人のミシェルさんにもオープンに接してくれる島民の人柄が気に入りに、試しに1年間住んでみることに。英語教師などをしながら島中を探し、ついに理想の場所を見つけた。と言っても、最初は一面背の高さほどもある藪。ミシェルさ

んは「Oh! No!」と思ったが、美緒さんは藪の向こうに見える海の美しさが気に入った。それから約2年半、住居や水道、道路などキャンプ場設備をすべて手作りし、2002年に「ダッチバンケーキキャンピング」を開いた。「大工仕事は全部初めて、でもとてもエキサイティングだった。島の人たちも親切に助けてくれて」とミシェルさん。美緒さんも「ここだからやってみようと思えた。失敗してもOK!」って勇気が湧いてくるんです」と当時を振り返る。



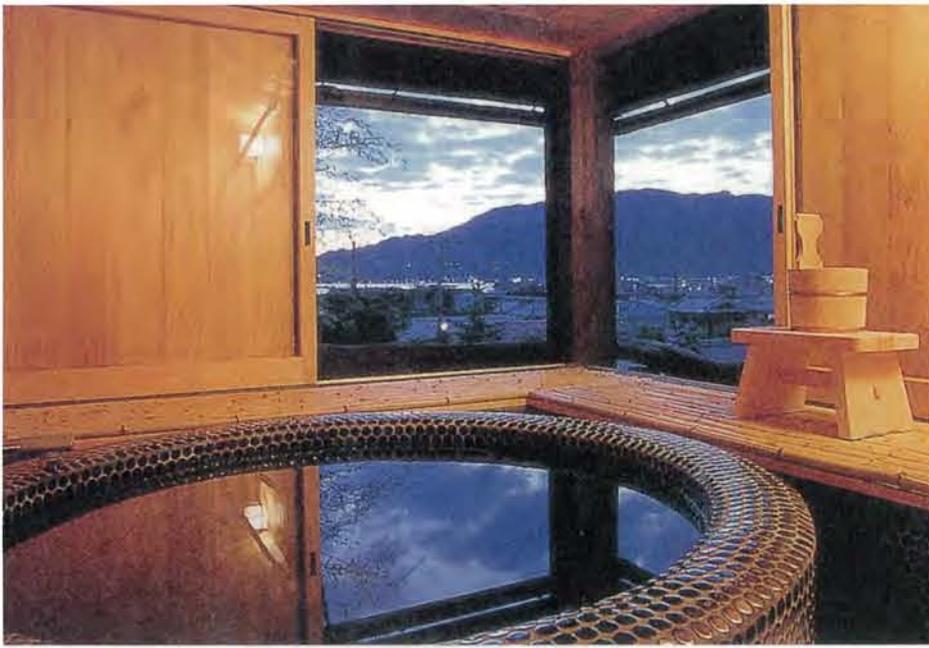
今年の5月にはオランダ風車のカフェをオープンさせたミシェルさん夫妻。その名の通りオランダ式のバンケーキとコーヒーが自慢。



「仕事柄、全国いろんな景色を見てきたがやっぱり小豆島が一番」。庭からご自慢の景色を楽しむ林田夫妻。



出前紙芝居中の幸崎さん。この日の会場は民宿「コスモイン有機園」の畑。ヤギのジュンコも一緒に近所の子どもたちが楽しんだ。



「島宿 真里」には瀬戸内海を眺められるこんな内風呂も。



レトロなボンネットバスは島人の足として今も現役。 四国遍路の約1/10の行程でまわれる小豆島遍路。

ショックを受けた。このままでいいのか。今までの自分が悔しくて、気がつくとも島に来ていた。そして約1年かけて小豆島をフィールド調査し「これからの地域社会に提案すること」というテーマで卒論を書いた。「大学を選ぶ時ってどんな町に住みたいとか場所を選んでるんじゃないですか。ところが就職になると住むのは二の次。でも住みたい所で仕事を探すと考え方があってもいいと思うんです」。

島に来てからは「神様のお告げ」で紙芝居を描くようになった。ポツポツな絵とユーモアたっぷりストーリーは大人にも子どもにも人気だ。「自分が絵を描くようになると思わなかった。住む環境って本当に大切だと思いましたよ」。

「島に来て一番変わったのは時計のまわり方ですね」と言うのは、移住14年目の柴田弥生さん(48歳)。夫と共に横浜からやってきた。移住前は残業が多く毎晩帰りが遅かったという夫も、今は仕事が終わるのはたいてい17時過ぎ。「18時にはもう家でくつろいでいます」。「大企業なら1日に出来るだけ多くのことをこなそうとするけど、島の人はいらぬものを捨てる」と必要なものが見えてくる。



小笠原父島で海洋生物の研究をしていたという山本さん。エコツアーでは、景色だけでなく島に棲む小さな生き物たちも紹介してくれる。



奥村さんは、約300坪の元そうめんの保管倉庫を購入。その一部を改装し住居兼工房として暮らしている。



子どもの頃、詩人だった祖父の別荘によく来ていたという柴田さん。その頃の思い出が移住のきっかけに。勤務先の「小豆島オリーブ公園」で。



「島の人は土と一緒に生きていく」といふ感覚が残っているのかもしれない。お日様と一緒に畑に出て、10時に休憩、12時のサイレンと共に昼食、日が暮れたら帰路につく。そんな自然に則した暮らしは決してプランターでは味わえない醍醐味だ。

また自分の道を見つけて故郷に帰ってくる人も増えている。小豆島でバッグや革小物のオリジナルブランド「Things」を立ち上げた奥村幸子さん(35歳)は、「子どもの頃は都会に憧れたけど、今は東京時代の仲間から逆に小豆島でSOHOっていいよねって羨ましがられます。小豆島は環境もいいし、ものづくりにあつたり場所」と今の暮らしに満足の様子。

「外の世界を経験したからわかること」



- Data**
- Dutch Pancake Camping
 - TEL/0879-82-4616
 - HP/http://ww8.tiki.ne.jp/~dpc-/
 - (カフェ)営業時間/11:00~17:00、休/水曜(祭日の場合は変更の可能性あり)
 - 島宿 真里
 - TEL/0879-82-0086
 - HP/http://www.mari.co.jp/
 - Things
 - 問合せ先/info@things-yucco.com
 - HP/http://things-yucco.com/
 - 自然舎
 - TEL/0879-75-2771
 - HP/http://www16.ocn.ne.jp/~jinensha/



20以上の醤油蔵や佃煮工場が立ち並ぶ「醤油の郷」。通りから漂う香ばしいもみの香りは散歩のご馳走。

自然と暮らす豊かさ 「農村歌舞伎」



湯船山の斜面に広がる中山の千枚田。上流から湧き出る「湯船の水」は、島の人々の貴重な水源として昔から大切に使われてきた。

一面に広がる棚田の風景は、人間が自然と共存しながら、「一所懸命」生きてきた証。季節の移り変わりと共に、あるものを活かし、新しいものを受け入れ、日々を上手に楽しみながら暮らす。小豆島のご先祖たちは、300年も前からそんな知恵を身につけている。

5月3日、肥土山農村歌舞伎

トトチントンチン…。三味線や太鼓の音に誘われて、まだ明るいうちから手に手に弁当や酒を携えて、地区の人々が棧敷席に集まってきた。大人も子どももこの日ばかりはみんな一緒に日がな観劇を楽しむのだ。午後3時、「三番叟」で幕が上がると、ヒラリヒラリと鮮やかな衣装をまとった役者たちが軽やかに舞う。そして子ども芝居「伽羅先代萩 政岡忠義の段」や大人による弁天小僧の名場面「雪ノ下浜松屋の場」に続き、最終幕にはベテラン役者が勢揃い。演目は明智光秀の叛逆を題材とした「絵本太功記 十段 尼ヶ崎庵室の場」。夜風に吹かれてほろ酔い加減の観客からは、プロ顔負けの演技にたくさんのおひねりやかけ声が飛んだ。

歌舞伎の島

小豆島中山地区。標高150㍍、250㍍の急峻な山腹に700余枚の美しい棚田が広がるこの地区には、300年前から伝わる農村歌舞伎の舞台がある。毎年春には肥土山、秋には中山で行われる農村歌舞伎は、役者はもちろん舞台師や化粧師、義太夫や道具係に至るまで地区の人々が担い、土地の神様へ奉納する祭典芝居だ。それを象徴するように、舞台の正面に

は緩やかな傾斜を利用した棧敷席があり、その一番上に神社の社殿が鎮座している。まるで神様と村人が一緒に芝居を楽しんでいるようだ。今でこそ島内に2箇所しかない農村歌舞伎だが、かつてはこのような舞台が30以上、600㍍7000人の役者がいたと言う。「私が子どもの頃は、娯楽といえ



中山の舞台は、天保年間以前に琴平・金丸座の前身を参考にして再築されたと伝えられる。写真は奈落の様子。昔は牛で回り舞台を動かしたことも。(国指定重要有形民俗文化財)(中山にて)



代々受け継がれてきた「根本」と呼ばれる台本。その数約350冊。この中から毎年の演目が決まるので、同じものが再演されることは少ない。(中山にて)



中村農村歌舞伎保存会の矢田さん(左)と九野さん(右)。話が弾むと自然と台詞や振りが出る矢田さん。指先の動き一つとっても絵になるのはさすがベテラン役者の貴様だ。(中山にて)



は歌舞伎。人が集まるとすぐ芝居談義になっていました」と語るの
は中山農村歌舞伎保存会会長の
矢田徹さん(74歳)。4代続く役者の
家に生まれ、自身も女形として19
歳から舞台を踏んでいる。矢田家
では、夜ごと大人たちが集まって
囲炉裏を囲むと「忠臣蔵の六段の
あの役の振りはどうだったか」とそ
の場で芝居が始まる。こうした環
境の中で、物心ついた時から自然と
歌舞伎の台詞や所作が身についた。
暮らしの中で
受け継がれてゆくもの

中山歌舞伎の準備は、毎年お盆明けの「大寄合」に始まる。世話人がその年の演目や配役を決めると、「根本」から「書き抜き」という台本作りが行われる。9月中旬、「練り固め」で配役確定を約束すると本格的な稽古が始まる。ちょうど農閑期にあたるこの時期、昔は朝10時に大根や野菜を持って練習場に集まると、交代で食事を作りながら夜中の12時まで仕事返上で何日も稽古に没頭した。そして無事本番を終え「どうやぶつ」と呼ばれる反省会が済むと、黄金色の棚田はいよいよ収穫の時を迎える。
しかし「今はサラリーマンがほとんどでしょ。集まるのは仕事が終わった夜だけ。芸が身につく前に、疲ればかりが身につくんですわ。子どもの数も減り、塾の合間の時間調整や送り迎えの段取りに「一苦労です」と、矢田さんも時代の移り変わりを感ぜざるを得ない。





今年5月3日に行なわれた肥土山農村歌舞伎の様子。約1000人の観衆を魅了した。
(舞台、高座、棧敷、衣裳蔵は国指定重要有形民俗文化財)(肥土山にて)



子どもたちの練習風景。学校が終わると、こうして昔と同じように手取り足取り体で芝居を覚えてゆく。(中山にて)



村人たちが代々増やし伝えてきた歌舞伎衣裳。その数約620点余り。一番古い記年は寛政5年(1793年)のものもある。(肥土山にて)

舞台方を務める九野賢輔さん(60歳)も、かつては役者として活躍していたが、仕事が忙しく思うように歌舞伎に関われない時期もあったと言う。けれど定年後時間が出来ると裏方として復活。大変やけどやっぱりやった後の充実感が忘れられませんか」と体で覚えた記憶を頼りに舞台セットを組んでいく。確かに後継者の不安がないわけではないが、それでも矢田さんはこう語る。「自分がおらんようになったら、きつと誰かがやると思う。こんなあんたが後継者やゆうて決めて出来るものでもないやろう」。

自然の営みの中で、同じ経験を共有することが共同体の絆を作り



○「中山農村歌舞伎」(中山春日神社)
今年10月7日(日)16:00~21:00
「肥土山農村歌舞伎」(肥土山離宮八幡神社)
例年5月3日開催
■問合せ/(社)小豆島観光協会
■TEL/0879-62-5300
■URL/http://www.shodoshima.or.jp/

○移住に関する相談は
■土庄町企画課 TEL/0879-62-7016
■小豆島町企画財政課 TEL/0879-75-1800
■小豆地区広域行政事務組合 TEL/0879-62-6565

※小豆島では、自治会や香川県と共に、島への移住や交流を進めるための取り組みをスタートさせています。

やがてそれが文化となる。親から子へ、郷党の長者から若い者へ、祖先の知恵は決して文字に記されることなく、こうして体と心の中に受け継がれてきた。10月7日、今年も300年変わらぬ姿で中山農村歌舞伎の幕があく。
(小西智都子)



5月3日「肥土山農村歌舞伎」の様子。

さぬきの
歴史を
探る(Ⅲ)

讃岐から
世界を見つめた
非常の人、平賀源内

文化、芸術、自然科学に至るまで
森羅万象を極めた人物、平賀源内。類稀なるその才能は
レオナルド・ダ・ヴィンチに匹敵すると称えられる。
日本全国を駆け巡っていたが、実は讃岐の出身である。
二度にわたって高松藩と決別して讃岐国を離れ、
江戸を目指した約三十数年を振り返る。

源内は1728年(享保13年)、
讃岐国志度浦(現さぬき市志度)
で生まれた。父は先代から高松
藩の米蔵の番人(御蔵番)を務め
る一人扶持の足軽。武士として
は低い身分であったが農業も営
んでいたため、家は比較的裕福
であった。源内が早くから学問に
打ち込めたのもそのおかげだ。
源内は12歳の頃から医者いしやの久
保桑閑くぼ せうかんに本草学を、作家・菊池寛
の先祖にあたる高松藩儒の菊池
黄山きくち せうざんから儒学を学んでいた。

発明家の才を窺わせる
「天狗小僧」

さぬき市志度にある「平賀源
内先生遺品館」には、少年時代の
源内が作った「お神酒かみぶり天神」とい
うからくり掛け軸が残っている。
天神像の掛け軸の背面に仕掛け
を施し、お神酒を供えると天神
の顔に赤みがさすというものの。

人を驚かせることが好きで才知
にたけた少年を村人たちは「天
狗小僧」と呼んだ。

※本草学/平安時代に中国から伝わった
薬物学の一つで、中国の薬草木の図を日本
産名の植物と比較し、その薬効を探索する
学問。江戸時代に全盛となり、後に博物学・
物産学に発展した。



▶源内12歳の作といわれる「お神酒天神」。お神酒を供えた人に気づかれな
いよう糸を引くと、薄い赤紙が天神の顔に重なり、まるで
酒を飲んだかのように酒を赤く見えるという仕掛け。(平賀源内
先生顕彰会所蔵)

一切を捨て
江戸を目指す

22歳のとき父が亡くなり、御
蔵番職を継ぐ。当時の藩主、松平

頼基たのきは学問好きで、特に博物学
や本草学に造詣が深く、「御林」
(現在の栗林公園)に藩の薬園を
整備した。源内の評判を耳にし
た頼基は源内を御蔵番のかたわ
ら薬園係に取り立てた。

家督相続から3年後の175
2年(宝暦2年)、下級武士として
は異例といえる長崎遊学のチャ
ンスをつかむ。長崎は唯一、世界
に開かれた窓であり、本草学を志
すものにとっては憧れの地。1年
間の滞在中、本草学、オランダ語、
医学、油絵などを学び、蘭学とい
う新しい世界を知る。

異文化に触れ大きなカルチャー
ショックを受けた源内は、帰郷後、
江戸に向かうことを決意する。
1754年(宝暦4年)、病気を
理由にして藩に辞職願を提出。
当時、武士が自ら主君に暇を願
い出るのは常識では考えられな
いことであった。
晴れて自由の身になった源内



もっともよく知られる平賀源内の肖像画。
高松藩家老の木村黙老が源内をよく知る人物から聞き取り、描いたもの。
「平賀源内肖像」(木村黙老著「戯作者考補遺」より。慶応義塾図書館所蔵)。
背景の文字は源内直筆の署名。「平賀源内書状 久保四郎右衛門宛」(個人蔵)より抜粋。

は29歳で江戸に向かい、本草学
者の田村藍水たむら あいすいに入門する。江戸に
来た翌年の1757年(宝暦
7年)、源内は藍水に働きかけ、
日本初の「薬品会」開催を提案
する。薬品会とは、全国から医者
や本草学者が集まって薬種や物
産品などを展示する博覧会のよ
うなもの。企画、運営の一切を源
内が取り仕切った。薬品会の大
成功は、「解体新書」「蘭学事始」
で知られる蘭医・杉田玄白との
出会いなど貴重な交友を導き、
源内の名はますます知れ渡るこ
とになった。

奨学金と勘違いし
高松藩に再仕官

江戸での源内の評判が高まっ
た頃、元主君の松平頼基に呼び
出され、御蔵番時代よりも好条
件の三人扶持で高松藩に再仕
官することになる。源内はこれ

を藩から与えられた学問料(奨
学金)と考えていたが、頼基は優
秀な本草学者である源内を再度、
一家臣として登用したにすぎ
なかつた。
その頃、博物好きの頼基は採集、
観察により蓄積したデータをま
とめた博物図譜の編纂に取りか
かっている。そのため、源内は事
あるごとに頼基に呼び出され、絵



▶源内は源内の
指導で志度の陶工
により始められた。
「源内焼 人物図角
皿」(香川県歴史博
物館所蔵)



◀源内が高松遊学から帰郷後に製作した日
本初の万歩計「量程器」。振幅により盛り
が刻まれ、歩いた距離がわかるという仕組み。
(財)鎌田共済会郷土博物館所蔵)

▼42歳で2回目の長崎遊学し、そのとき持ち帰った「エレキテル」を復元したことはよく知られているが、源内はそのエレキテルを大名や豪商にデモンストレーションして見せ、高額な見物料を得ていた。(通信総合博物館所蔵)



師の選定からその指導など、さまざまな手伝いをさせられた。全国の大名が手がけた博物図譜の中でも頼恭の図譜は出色の出来とされ、特に評価の高い魚類図譜「衆鱗図」のうちの2帖は、時期や内容から見て源内が作業に関わったとされている。「衆鱗図」には、源内と交流があり、江戸から小豆島へと移り住んだ絵師、三木文柳の技法と酷似した絵画が見られ、源内が江戸で築いたネットワークが生かされている。

自由と引き換えに 再就職禁止

「私儀、甚だ多用にて、さてきて埒明き申さず」。この頃、源内はよく友人への手紙にこう綴ったという。非常に忙しすぎて、自分が今何をしているのかよくわからないほどだ。この一文から自分の勉強や研究が一向に進まない苛立ちがわかる。足軽の出でありながら四人扶持の薬坊主格にまで出世したことも周囲の妬みを買った。ここに至って源内はようやく自分が一家臣にすぎないことに気づく。1761年(宝暦11年)、源内34歳のとき、再び藩に「医師の修行に打ち込みたい」と言い訳し、辞職願を提出した。のちに老中となる幕府高官の田沼意次と懇意にしていた源内は、意次の推挙があれば幕府に仕えることも可能かも、もつとよい条件で学問に打ち込めるかも、などと腹の中で思っていたのかもしれない。辞職願を提出してから約9ヶ月後、ようやく退職の許可状が出される。しかし、その最後に、

「但し他え仕官之儀は御構い遊ばされ候の一文があった。武家諸法度の規定に基づき、「他家への仕官は禁ずる」ということで、これにより再就職の道は閉ざされてしまった。

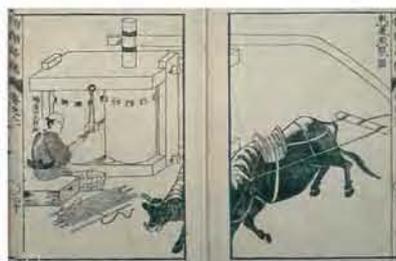
獄中での「非常の死」

とはいえ、自分の好きな勉強に打ち込める自由を再び手にした源内は意気揚々と江戸へ向かう。またもや薬品会を成功させ、その目録となる「物類品鑑」を刊行、博物学者、本草学者としての地位を確立した。その後は、溢れ出る才能を武器にスポンサーを求めて全国を行脚し、さまざまな分野で名を挙げる。戯作家、鋳山家、蘭学者、起業家、科学者、発明家、浄瑠璃作家、洋画家、陶芸家、コピーライターといった数々の肩書きを持つことになる。

源内の名声を後世に伝える「エレキテル復元」を果たしたのは49歳のとき。その3年後の1779



▲松平頼恭の命により、源内が関わったとされる「衆鱗図」(高松松平家歴史資料。香川県歴史博物館保管)。細密で立体的な西洋画の手法で描かれている。



「物類品鑑」は、5回に及ぶ薬品会の出品物約2000点の中から360種を選び、分類し、解説を加えた本草・物産書。これは源内自らが製糖法を描いたもの。(香川県歴史博物館所蔵)

年(安永8年)、主が次々と怪死を遂げるといよいよわくつきの家で暮らし始めた。その家でふとした誤解から人を殺傷。厳寒の獄中で破傷風にかかり、病死する。52歳の生涯であった。さぬき市志度の自性院には、人目をはばかるようにとても質素な源内の墓がある。源内は悲痛な最後を遂げる2年前、功ならず、名ばかり遂て年暮れぬという句を詠んでいる。自分はさまざまな分野でもはやされ、著名人になったが、なんの功績も残せてはいない。日本のレオナルド・ダ・ヴィンチと称され、挙げれば枚挙に暇がないほどの肩書きを持った源内だが、その多芸多才が本来、極めたかった本草学の妨げになったのかもしれない。



▲さぬき市志度にある「平賀源内先生遺品館」。「お神酒天神」や木製の「エレキテル」のほか、源内の功績を伝える約60点の遺品を展示。遺品館の左隣には平賀家旧邸、その裏手には薬草園がある。

▲「遺品館」の隣には平賀源内の銅像が建つ。木村黙老が描いた肖像画により、面長で華奢なイメージが定着している源内だが、銅像のように恰幅がよかったという説もある。台座には源内と生涯を通じて親交が深かった杉田玄白が記した銘碑が刻まれている。

「非常ノ人 非常ノ事ヲ好ミ 行ヒ是レ非常 何ゾ非常ノ死ナル あなたは凡人の域をはるかに超える人だった。あなたの好きなことも行動も世間の常識を超えていた。どうして死ぬときまでも非常であったのか」。杉田玄白は親友の死を悼み、墓碑を建てた。平賀源内先生遺品館の隣に建つ源内の銅像の台座にもこの碑銘が彫られている。

(白井ひとみ)

Life stage WAKAYA

代表
熊 春枝さん
Kuma Harue

大正5年生まれ。明治36年創業の「ワカヤ」の2代目として店を守り続けてきた。夫の故又平さんは商店街の理事長として町の発展に貢献。丸亀町の足跡を知る貴重な生き証人だ。

SHOP takamatsu style の顔 06



上/今も店の上で4世帯が同居する熊一家。
下/ビルに建て替える前の店の様子。

店 の裏からトントントンと階段を上ると自宅。かつてはそんな商住一体型が多かった商店街も、現在丸亀町に住む人はわずか75人。そんな中、今も店の上で家族4世帯が暮らしていると聞いて訪ねてみた。

丸 亀町商店街で婦人服を扱う「WAKAYA」の熊春枝さんは御年91歳。社長である息子さんとお孫さん夫婦、そして幼稚園に通うひ孫さん2人の6人で暮らしている。

春 枝さんが丸亀町で生まれたのは大正5年。当時は「ワカヤ洋品店」といい、下着やシヨール、パランルや帽子等を扱っていた。その頃は、自宅から土間を挟んで畳敷きの細長い店があり、壁の棚から品物を出しては畳に広げて商いをした。店の

切り盛りはもっぱら女性の仕事。「だから私は7歳まで、おんばさん(乳母)に育てられました」。

香 川県立高等女学校を卒業するとすぐに店を手伝い、1人で大阪へ仕入れにも行った。店が終わるとその足で天保山行きの夜行船に乗り、船場の問屋街で商品を仕入れ、最終船で持ち帰っては翌朝の店頭に並べる。「あの頃は並べた先から商品が売れた。自分の裁量で仕入れた品が思い通りに売れた時は、何とも言えん気持ちよさがありましたわなあ」。

戦時中は赤ちゃんを抱え、物々交換で品物を集めた。また終戦後は、繊維製品への経済警察の統制が厳しく、紙の日傘を売ったこともあったと言う。戦後しばらくは可動式の日よけ天幕に、日傘を差した女性の姿がよく見られました。近所の人も

戦 後しばらくは可動式の日よけ天幕に、日傘を差した女性の姿がよく見られました。近所の人も

丸亀町在住の4世帯家族

まちで暮らし、まちに育てられ

受け継がれてゆく商人魂



「やることが一杯あってボケる暇もないの」と微笑む春枝さん。

みな下駄履きで今より庶民的でしたね」と語るのは息子の善一郎さん(71歳)。昭和40年代にはビルを新築。春枝さんの跡を継いで「ニューワカヤ」と改名し、洋品店から洋装店になった。またこのビルで生まれ育った孫の紀三夫さん(31歳)も「小さい頃は店の中を三輪車で走り回ったり、ビルの屋上で野球したり、閉店後はアーケードで友だちとサッカーもした。小学校時代の将来の夢に、"売人"って書いたのを覚えています」と思い出を語る。

現 在は善一郎さん、紀三夫さんに店を託し現役を退いた春枝さんだが、ひ孫の面倒や晩ご飯作りなど、今でも縁の下で力持ちとして店を支えている。商店街は女性がしかりしているほうがうまくゆく。そんな春枝さんの言葉がずしりと心に響いた。(小西智都子)

野田屋電機

社長
古川 新二さん
Furukawa Shinji

大正14年、高松市生まれ。兵役も経験する83歳。好奇心旺盛な少年そのままに、野田屋電機社長として現役で情報収集に奔走する。



SHOP takamatsu style の顔 07

上/至るところに赤線が引いてある英文の原作本。「ダ・ヴィンチ・コード」も読破した。
下/小学校時代のクラス写真。一番体が小さかった。(前列左端)



「人の2、3歩先を行っておかないと時代についていけない」と話す古川さん。

大 正生まれの83歳。「波乱万丈の人生だった」という言葉とは裏腹に、その表情はとても穏やかで優しい。郊外の家電量販店が勢力を誇る中、「街の家電店」として独自の路線を開拓した野田屋電機社長の古川新二さん。好奇心旺盛な少年のような瞳が印象的だ。

高 松商業高校から猛勉強の末、高松高等商業学校(現香川大学経済学部の前身)へ進学。父親が経営していた「野田屋電気」の跡取りとして、経営学や経済学を精力的に学んでいた。

穏 やかな日々を終止符が打たれたのは昭和19年のこと。商業学校3年生の冬、赤紙が来たのだ。満州の関東軍に派遣後、内地へ引き上げ。翌年の終戦は高知で迎えた。高松に帰ってきた時には家も店も学校も、すべて丸焼け。「何もかも失っていた」。朝も昼も夜も食べるものと

時代先の先を読む83歳

信念は「何事も徹底的にやる」

いえばサツマイモ。どん底だった。意の古川さんを救ったのは猛勉強で身に付けた英語力。「米兵の通訳をしないか」という海軍人事部からの誘いに飛びついた。給料も魅力だったが、古川さんにとっては何より異文化に触れる大きなチャンス。「見るものすべてが新鮮だった。一番の衝撃はポータブルラジオを初めて見た時。度肝を抜かれ、研究せざるにいらなかつた」。英字新聞や雑誌を読みあさり、独学で電気学にも精通するように。再建された実家を継ぐことは自然なことだった。

昭 和48年ごろ、町工場ではオートメーション化が始まったばかり。この頃すでに古川さんはパソコン時代の到来を予想していた。日本初のパソコン練習機も発売とともにすぐ購入、関連書籍を集め、ハードだけでなくソフトの研究・開発にも取り組んだ。「興味を持ったものは徹底的に研究する」古川さんの信念こそ、他の家電店と一線を画す原動力だ。現在もパソコン販売はもとより、企業向け特注ソフトやLAN構築を手掛け、四国電力伊方発電所にもソフトを納入している。

趣 味は海外旅行と読書。旅行「街の話をつゆくり聞ける」。情報収集の術や時代の流れをつかむ力は天性のものだろう。読書も話題作から仕事の研究資料まで幅広い。本を手にも「もう引退の年や」とつぶやきながら、「実は今、興味が沸いているものがあつて、アメリカカイギリスあたりに調べに行こうと思つてる」と二ツツ。新しい時代を見据える、そのパワーは衰えを知らない。(吉田紀久子)



笑顔も人気の秘訣。



上/花や蝶は女の子の永遠の憧れ。見ているだけで楽しい小物が並ぶ。右/四国での扱いはコレクションコニシだけの「NANA」の商品。

コレクションコニシ

代表

小西 扶幸さん

Konishi Tomoyuki

高松市生まれの55歳。店舗面積は丸亀町一番街で一番小さいながら、集客率・店舗効率はナンバーワンとも評される。

会話も笑顔もキラキラ輝く おばちゃん達の夢が詰まった「宝箱」

「おっちゃん、何かええのある？」。どう見ても小西さんより年上の「おばちゃん」が店内を見て回る。「ええの入ってる。でも、ちよつと派手すぎるか。」「そやな。私、もうおばあちゃんやで」。常連のおばちゃんとの絶妙な掛け合い。綾小路きみまろを彷彿とさせるこの主こそ、丸亀町一番街で一番小さな服飾雑貨の店、コレクションコニシ店主・小西扶幸さんだ。

先を行く人行く人が小西さんを見つけては声を掛ける。誰もが慕っている姿から、丸亀町商店街の「主」かと思いきや、高松に拠点を置いたのはほんの10年ほど前だ。昭和46年、勤めていた名古屋の繊維商社、三栄商事がニクソンシヨックのありを受け、倒産。実家が服や小物の小売をしていた背景もあり、丁稚奉公しながら大阪の船場問屋へ飛び込んだ。「商売のいろはを教えてもらった。」商人「が楽しくなって」。その

まま大阪で独立、卸商を営む傍ら、実家の高松の店にも納品し始める。高松と大阪を行ったり来たり多忙な生活が始まった。

「とにかく忙しくて、あの頃の記憶は飛んでしまう」と。阪神大震災も経験、5年間はまったく休みなしの日々だった。無我夢中で頑張っていた最中、コレクションコニシ創業者の父親、要さんが亡くなる。これを機に、徐々に高松に拠点を移した。

大阪での生活が長かったわりに、高松にすぐに馴染むことができたのは「人の顔をすぐ覚える」特技のおかげ。一度来た客の顔はすぐに覚え、「一人ひとりの趣味や好みを把握した。総レースのバッグやエプロン、キラキラのラインストーンが付いたTシャツや小物など小西さんの見立てた服や雑貨はおばちゃんたちのツボにはまる。「特に要るものはないやけど、つい、覗いてしまう」のが小西さんの店だ。

客さんからのリクエストもあるけど、新しい商品を見つけてきて、お客さんをおとす言わせるのが「楽しみ」という小西さん。仕入れセンスと情報アンテナは大阪時代に培った。タオル地に蝶やバラの模様色が鮮やかな「NANA」の商品は四国で唯一、小西さんの店に並ぶ。「使いやすいと評判は口コミで広がり、今では看板商品だ。

小西さんの店は宝箱。私たちの少女時代そのままの夢や憧れがギッシリ詰まっている」と常連客のおばちゃん。「女の人はかわいい物を見ると輝く。それを見るのが何より楽しみ」。おばちゃんたちの笑顔と一緒に、「宝箱」を作る小西さんもキラキラと輝きを増しているようだ。(吉田紀久子)

自分が綺麗だなあと考えた商品がよく売れて、あまり好きではないなあと思うとなかなか売れない不思議ですね」と、目の前の宝飾品を眺めながら、販売の難しさを語る飯間さや香さん。この春、高松大学を卒業したばかりの23歳。創業社長の長女である。壱番街のアイアイイスズヴァンキャトルフランス語で24の意味)で、販売を担当している。



SHOP takamatsu style の顔

上/アイアイ イスズ ヴァンキャトルのスタッフ。下/新田店長と飯間さん。

アイアイ イスズ ヴァンキャトル

店長

新田 輝彦さん Nitta Teruhiko

飯間 さや香さん Iima Sayaka

店長 新田さん(42歳)は、元東京の百貨店時計売場スタッフ。飯間さや香さん(23歳)はアイアイ イスズ社長の長女。スタッフ6名で、新しいコンセプトの店作りを担う。



飯間さん一番のお勧め、フォリフォリ(ギリシャ)のジュエリー。

分が綺麗だなあと考えた商品がよく売れて、あまり好きではないなあと思うとなかなか売れない不思議ですね」と、目の前の宝飾品を眺めながら、販売の難しさを語る飯間さや香さん。この春、高松大学を卒業したばかりの23歳。創業社長の長女である。壱番街のアイアイイスズヴァンキャトルフランス語で24の意味)で、販売を担当している。

さいころは高松市仏生山町の時計店、アイアイ イスズ旧校時代から、旧ヴァンキャトルで「お茶出し要員」をしながら店を手伝い、客とのトラブルも体

本店内で、昔からのスタッフを「お兄ちゃん、お姉ちゃん」と呼んでよく遊んでもらった。会社がどんどん大きくなっていったところだ。日曜日でも忙しく働く両親を見て、「時計の仕事は嫌」と思ったこともあった。子供のころから憧れていたブランドブルーナーの勉強をしたかったが、両親に反対され地元大学の学へ。なんと在学中に結婚してしまった。夫は元美容師。恋愛も人生もこれからのという時に、「結婚して縁ですよね。もうこれから縁がないかも」と思ったそう。卒業後、さや香さんはヴァンキャトルへ。夫は自分の意志で美容師をやめ、本店で時計の販売を担当している。

お客様の後ろには、物語がある

「ジュエリーコンシエルジュ」を

目指し奮闘中

大 人の女性をターゲットに、ジュエリーが中心のヴァンキャトル。店長の新田輝彦さんは「本店は時計が中心。珍しい、世界の時計」を求めて、県外客が多く来る。ヴァンキャトルは時計もあるが、宝飾品が中心の店を目指しています」と店の将来像を描く。有名ブランド店が軒を並べる壱番街。ジュエリーコンシエルジュのヴァンキャトルと言われる日を目指して、新田店長やさや香さんたち若いスタッフの奮闘が続く。(仁田貴夫)

兄貴

家電量販店のデオデオが6月、高松市春日町に新店舗を開業した。デオデオの四国での直営15店の中では最大の店だった。家電店は相変わらず店を増やして元気がいい。

WW

東京の池袋駅前では、7月に業界トップのヤマダ電機が大型店を進出させて大変な話題になっているわ。というのも、池袋は業界5位のビックカメラが4つも店を持つ本拠。その敵陣に切り込んで来たというわけ。売り上げ1兆円のヤマダ電機」と店内アナウンスして敵意剥き出しだった。

親父

地方の有力店が手をつないでいくやり方は、スーパーのイオンが大企業になっていった方式とそっくりだ。それだけに、地方ではない東京のビックカメラの仲間入りは注目された。

兄貴

なぜ、白紙になったの。合併していればヤマダ電機を抜いて念願の1位になるどころだっ

親父

ビックカメラ社内から「飲み込まれるのではないか」という不安が広がったかららしい。それでも、3%の株式の持ち合いや株主優待権の相互利用、オリジナル商品の共同開発などの業務提携は続けると言っている。

兄貴

そうなると、ヤマダ電機がぶつちぎりで独走する状態は変わらないな。池袋に続いて、来年3月には大阪の千里、夏には東京の渋谷、新宿にも開設する計画で、

WW

いよいよ全国制覇に向けてまっしぐらという感じだ。ヤマダ電機は群馬県が本拠地であつて北関東のYKK(ヤマダ電機、コジマ、ケーズデンキ)と言われているのに、どうして抜け出して断トツになったの。

親父

家電店はほかの業種と違って、扱う商品がどこもたいして変わらない。そのなかで松下電器産業の系列店として顧客へのきめ細かいサービス手法を身につけたこと、量販店に転身してからはコジマとの激しい安売り競争で販売力を磨いたことが大きいのは。

WW

企業が大きくなると、店頭価格が変わっていくの。

親父

そうだ。売り場面積が増えれば、仕入れ規模が膨らみ、メーカーに対して優位に立てる。取引の交渉力(バイイング・パワー)が高まれば、仕入れ時の割引額が増え、販促協賛金も多くなる。メーカー側も沢山買ってくれる販売店は有り難いから厚遇せざるをえない。こうして、安く仕入れれば店頭で商品を安く売れる。大きくなることで安値競争に勝つ最大の要素ともいえる。

三越、伊勢丹の統合ニュースに衝撃

小売業の合併といえば、7月に三越と伊勢丹が統合するといいうニュースが流れてビックリしたわ。三越は、江戸時代の呉服屋の越



エディオン・グループのデオデオが6月、高松市春日町に出店した。

後屋から続いている日本の百貨店の代表でしょう。

兄貴

その三越が経営不振で、伊勢丹に救済を頼みこんだと言われているね。三越の2007年2月期の連結決算は減収減益。売上高で大丸に抜かれ4位に落ちた。でも、5位の伊勢丹と統合すると、1位の高島屋を上回ってトップに立てるんだ。

親父

百貨店業界はずっとじり貧が続いているから、合併話が多いのも当然だろう。なにしろこの10年間、売り上げが下がりがりっぱなし。大丸と松坂屋ホールディングスが経営統合して9月に「J・フロントリテイリング」になるし、10月には阪急百貨店と阪神百貨店も「エイチ・ツー・オーリテイリング」に。先鞭をつけたのは「ミレニアム・リテイリング」の発足だね。4年前の2003年に、西武百貨店とそごうが一緒になった。

WW

新会社の名前はカタカナばかりで分かりにくいわね。

焦点

流通業界の大再編

「注目のエディオン、三越、イオン」

は都心駅前という住み分けがあつたのを、ヤマダ電機が方針転換し、激突することになったんだ。

WW

ビックカメラといえば、今年の初

ある一家、3人兄弟妹の会議から



親父(長男) 中心市街地の3代目店主
兄貴(二男) 大手ショッピングセンター(SC)の店員
WW(長女) working woman キャリアの独身女性



WW



WW

●百貨店の売上高

順位	新順位	店舗名	売上高
1	3	高島屋	105
2	2	大丸	84
3	1	三越	80
4	1	伊勢丹	78
5	5	丸井	55
6	4	そごう	50
7	4	西武百貨店	47
8	6	阪急百貨店	40
9	2	松坂屋ホールディングス	34
10	7	東急百貨店	33

(単位:百億円)

●家電量販店の売上高

順位	店舗名	売上高
1	ヤマダ電機	144
2	エディオン (デオデオ、エイデン、ミドリ電化)	74
3	ヨドバシカメラ	65
4	コジマ	50
5	ビックカメラ	48
6	ケーズホールディングス (デンコードー)	43
7	ベスト電器(さくらや)	37
8	上新電機	32

(単位:百億円)

●小売業の順位

順位	店舗名	売上高
1	セブン&アイ・ホールディングス	53,378
2	イオン	48,247
3	ヤマダ電機	14,436
4	ダイエー	12,838
5	ユニー	12,289
6	高島屋	10,494
7	西友	9,961
8	大丸	8,370
9	三越	8,041
10	伊勢丹	7,817

(単位:億円)

連携関係

親父

イオンに対抗できるのはセ

かつての流通業ナンバーワンだったダイエーをマルエツと一緒に飲み込んでしまったのだから、驚いてしまふ。その前から、マイカルやヤオハンジャパンを買収し、去年は、持ち帰り弁当チェーンのオリジン東秀も取得したんでしょ。ダイエーや西武と違って岡田家の二代目がしっかりしているからかしら。

WW

兄貴

ショッピングセンターを含めた流通業全体をみると、イオンの勢いが凄いな。

イオンとセブンの2強時代に

街中には夜中も開いているコンビニ。これだけ色々な店が出来れば、百貨店の吸引力が落ちてしまうわよ。商店街と百貨店しかなかった時代とは違うんだから。合併話と無縁なのはトップの高島屋だけだけど、どうするか興味津々ね。

親父

3社とも持ち株会社。これまでの会社が共同出資して作り、店舗名はそのままだから外見はあまり変わらない。どれも「リテイリング」、つまり「小売業」という馴染みのない英語付きだから、長ったらしくなっている。客離れ

WW

兄貴

を加速するだけで感心しないね。どうして、百貨店の人気がなくなったのかな。

当たり前よ。衣料品はブティック、家電は量販店、そして郊外には駐車場たっぷり



ブニーイレ

兄貴

日本の流通業で売り上げ1兆円を超えるのは6社だね。1位はセブン&アイ・ホールディングスで2位がイオン。次いで、ヤマダ電機、ダイエー、ユニー、高島屋。ダイエーはイオングループだから合わせるとセブンを上回る。

大手がますます大きくなっているのね。

親父

それでも外国と比べると、まだまだ規模は小さい。米国のスーパー、ウォルマートは世界最大の小売業で絶対的な「二強」。何しろ米国内で4千店近く、世界中に6千店以上、売り上げも40兆円。余談だが、日本にも西友と提携して進出してきたが、珍しくうまくいっていない。百貨店ではメイシーズ・グループが、05年にライバルのメイ百貨店を買収して、400もの店舗を奪い取った。その結果、なんと全米で約850店舗をもつ巨

WW

兄貴

大な百貨店になった。

日本もそうなるっていくのかしら。

少子化で人口が減っていけば、市場は細る一方。だから競争が激化し、敗れた企業が吸収されていく。少なくなる人口が大都市にますます集中していき、地域店は全国ネットの大手に救済を求め構図は続くよ。それに、「まちづくり三法」の施行で、1万㎡級の郊外型大型店が新しく建設しにくくなるから、イオンやセブンがスーパーや大型店の既存店買収に拍車を掛けると思うよ。

WW

日本全国でどこに行っても同じ店舗が並んでしまうのね。こういう流れは消費者が選んだこととはいえ、何となく面白くないわね。(高尾 朔)



ビックカメラが4店もある東京・池袋に出店したヤマダ電機。店名は「LABI 池袋」(写真右)で、向かいと並びにビックカメラ(写真左)がある。



シンボルのライオンが目を引く三越の日本橋本店(写真右)。伊勢丹の新宿本店は、日本一の売上高を誇る。





Q&Aインフォメーション

information



Q 東棟4階のコミュニティルームは、だれでも借りることができると思いますが、詳しいことを教えてください。

A 約20坪(66㎡)の貸し教室が3部屋あり、どなたでもお申し込みいただけます。部屋の壁は移動可能なパーティションなので、1部屋でも、2部屋、3部屋と区切った形でもご利用いただけます。例えばヨガ、フラワーアレンジメントなどの教室や会議室、また作品の展示会場など多目的に使えるスペースです。キッチン付きの部屋もあり、料理教室や、食材を持ち寄ってのパーティなどにも使えます。詳しくはホームページ <http://www.kame3.jp> の施設案内をご覧ください。



Q ドーム広場が完成しましたが、定期的な催し物やイベントはありますか？

A はい、ほぼ毎週、週末を中心にさまざまなイベントを開催しています。「ウィークエンドライブ」ではジャズやボサノヴァ、クラシック、フュージョン、沖縄ミュージックなど幅広いジャンルで「大人が楽しめる音楽」をテーマにミュージシャンをセレクトしています。また月末にはさまざまなテーマで屋台が集う「壱番街マルシェ」を開催。詳しい情報は <http://www.kame3.jp> の丸亀町Newsをご覧ください。



Q 東棟2階のテラスにある、子どもたちに人気の風変わりな椅子について教えてください。

A 地元の家具作家Hirocchiさん制作の通称「滑り台イス」です。今年3月末に開催された「丸亀町アートプロジェクト: イスの展」に出展したこの「滑り台イス」は、子供たちがあまりに楽しそうに遊んでいたのが、丸亀町まちづくり会社がHirocchiさんに「10メートルの滑り台イス」を注文し、2Fのテラスに常設することになりました。以来、週末になると子供たちが先を争って、イスに登ったり滑ったりの人気スポットになっています。



Q ドームカフェについて教えてください。

A 広場でのイベント時などに屋根がドームの形をした「小ドーム」カフェアースでドリンクや軽食を販売しています。このアースは地元で活動する若手アーティスト集団「サーカス3D Art design studio」(アイアンアーティストの横塚登+家具作家の伊藤洋+ペンアーティストの三宅美枝子)からなるユニット)がデザイン、制作したもので、出店希望者にカフェアースの貸し出しも行っています。ユモラスなデザインと広場でのドリンク販売サービスが来街者には大好評です。



●高松丸亀町まちづくり株式会社が回答しました。

ご意見、ご感想やご質問などをお寄せください。
F A X 087-823-1433
E-mail ichibangai@marugamemachi.ne.jp

illustration: 広田桂子

壱番街を彩る川島猛のアート&アート



手すりアート(東棟2・3F)

ドーム広場アート

[季刊誌]

高松スタイル

Anki

Vol.03 September 2007「あんき」

編集・制作 ■ 「Anki」編集委員会

編集長 ■ 高尾 朔

アートディレクター ■ 仁田貴夫

エディター ■ 小西智都子

白井ひとみ

吉田紀久子

廣瀬将人

仁田貴夫

デザイナー ■ 木村由香

眞鍋亜希子

フォトグラファー ■ ALOWAN

篠原秀宜

岡村一郎

仁田貴夫

イラストレーター ■ 広田桂子

印刷 ■ 滝川印刷株式会社

発行 ■ 高松丸亀町まちづくり株式会社

〒760-0029

香川県高松市丸亀町13番地2

丸亀町ビル

問い合わせ先 ■ 高松丸亀町まちづくり株式会社内

tel.087-823-0001

fax.087-823-1433

ichibangai@marugamemachi.ne.jp

http://www.kame3.jp

◎次号は、
2007年12月1日
発行です。

定価200円(税込)

高松スタイル「Anki」へのご意見、ご感想や
ご質問などをお寄せください。

F A X 087-823-1433

E-mail ichibangai@marugamemachi.ne.jp

©高松丸亀町まちづくり株式会社 2007
本誌記事の無断転載を固く禁じます。



手すりアート(東棟2F)



ドーム広場アート



軟骨入りのオリジナルつくね、
目玉焼き、シャキシャキのレンコ
ンをサンド。生姜たっぷりのテ
リヤキソースと大葉、柚子唐辛
子で和風に仕上げました。

壱番街
SHOP発

BAGEL & BAGEL

tel. 087-823-5339

秋季限定ベークルサンド

「月見つくねバーガー」

9月1日～11月30日

525円(税込)



紀伊國屋書店では古き良き名
作映画をオリジナルレーベルと
してDVD化しています。日本
映画をはじめ、フランス、イタリ
ア、ドイツ、ロシア：など世界中
からの選りすぐりの名作に特
典映像や解説リーフレットを充
実させたラインアップです。古
くはサイレントの時代から、近
年のヨーロッパ作品まで、毎月約
10作品をリリースしており、学
術DVDを含むタイトル数は既
に800作品に及んでいます。
TVやレンタルでは満足できな
い。そんな映画ファンのためのレ
ベルです。ぜひ名監督、名優たち
が活躍した素晴らしい作品の
数々をお楽しみください。
詳しくは古今東西の映画作品
を楽しむためのWEBガイド「映
画の國」<http://eiganokuni.com>
をご覧ください。

紀伊國屋書店 高松店
DVD&CD Forest
tel. 087-811-6622

「紀伊國屋レーベルDVD」

紀伊國屋書店では古き良き名

作映画をオリジナルレーベルと

してDVD化しています。日本

映画をはじめ、フランス、イタリ

ア、ドイツ、ロシア：など世界中

からの選りすぐりの名作に特

典映像や解説リーフレットを充

実させたラインアップです。古

くはサイレントの時代から、近

年のヨーロッパ作品まで、毎月約

10作品をリリースしており、学

術DVDを含むタイトル数は既

に800作品に及んでいます。

TVやレンタルでは満足できな

い。そんな映画ファンのためのレ

ベルです。ぜひ名監督、名優たち

が活躍した素晴らしい作品の

数々をお楽しみください。

詳しくは古今東西の映画作品

を楽しむためのWEBガイド「映

画の國」<http://eiganokuni.com>

をご覧ください。

を

ご覧ください。

野田屋電機
tel. 087-851-4545

「県下随一の

オーディオ専門フロア

1階にはファン待望のオーディ

オフロアが登場。国内はもとよ

り、海外ブランドも数多く取り

扱っています。修理もOK。スピー

カーやヘッドホンなど視聴して

買える専門店を目指しています。



Max Mara

tel. 087-821-6300

異なるテクスチャーの組み合わせ
せやトップとボトムとのボリューム
対比で、洗練されたシンプルス
タイルを提案する秋冬コレクション
が揃いました。

WB ウォールタカマツ
tel. 087-822-2203

「ボジョレーヌーボーフェア

開催!

ボジョレーヌーボーに合わせた

コース料理とボジョレーヌーボー

2種・ウィーノ・ソッペロ(イタリ

アの新酒)1種飲み放題。

期間：解禁日の2007年11

月15日(木)から11月30日(金)

まで

●前売券を10月15日(月)から

11月14日(水)までの間に

5,500円で販売します。

●11月15日(木)以降は

6,000円になります。

◎クリスマスディナーは、12月

21日(金)から12月25日(火)

まで。お一人様10,000円の

予定です。



手すりアート(西棟3F)



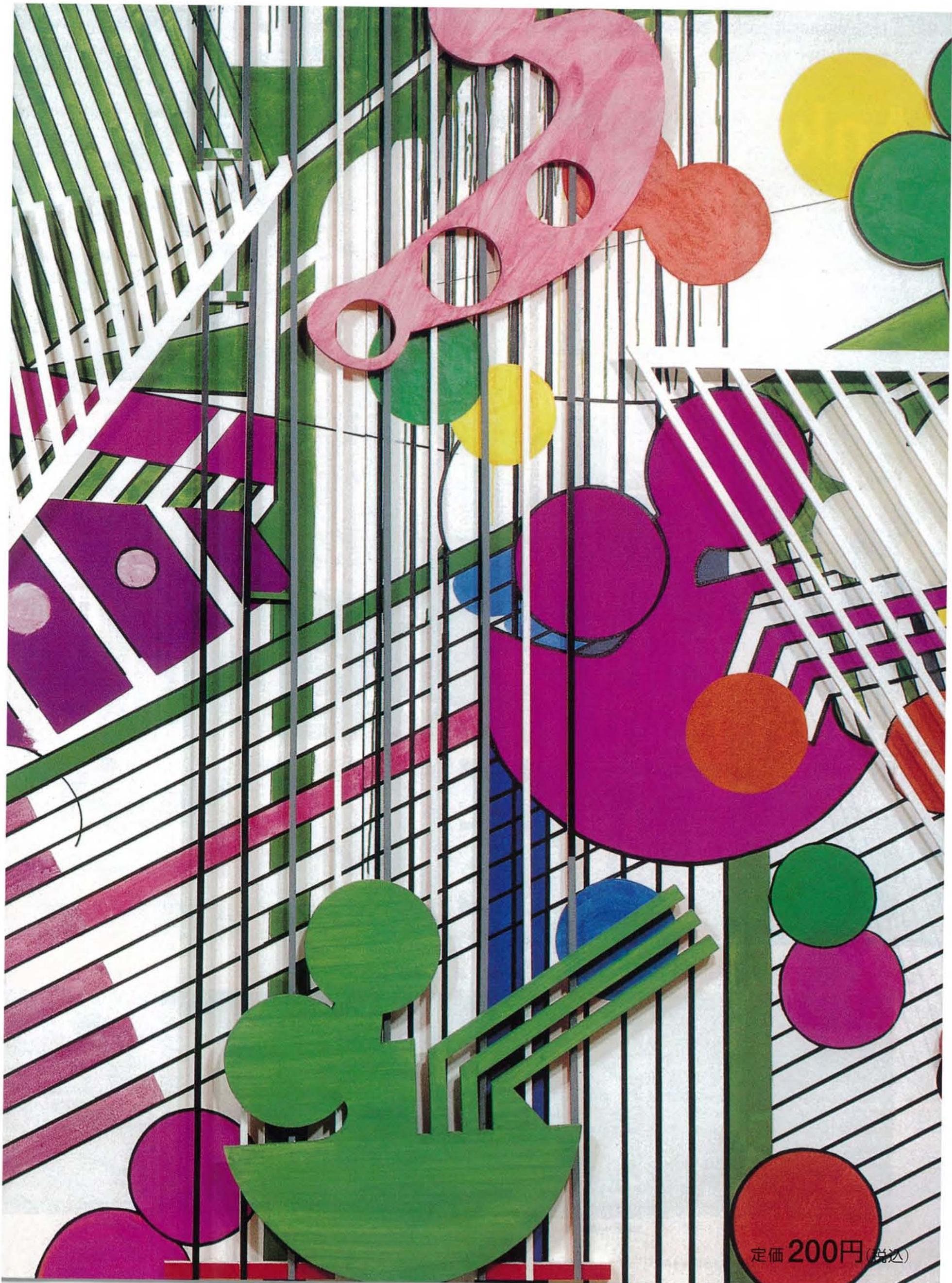
壁面アート(西棟2階)



手すりアート(西棟2・3F)



ドーム広場アート



定価 200円 (税込)